

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
10	藤田 哲哉（19）	<p>1. 富士市の財政に関する意識の醸成のための財政読本について</p> <p>近年、社会保障関連経費はもちろんのこと、新環境クリーンセンター建設に伴う公債費など義務的経費が確実に膨らむほか、総合体育館建設や富士駅北口再整備事業、新病院建設などの大規模な投資的事業を予定しており、厳しい財政状況が続くと予想される一方で、少子化対策やデジタル変革の推進等、新たな課題へも対応していく必要がある。</p> <p>このように厳しい財政状況の中で、第六次富士市総合計画が示す都市像の具現化を目指すためには、富士市民並びに市職員の理解が必要不可欠である。</p> <p>そこで、以下質問する。</p> <p>(1) 財政に関する資料は、専門用語等なじみのない言葉が多く、市民はもとより職員においても分かりにくい内容である。そこで、極力行政用語を控えて、カラーイラストや図表、漫画を多用した小学校高学年でも理解できる財政読本の作成について伺う。</p> <p>(2) 他市では、中学生向けに、GIGAスクールにおけるデジタル副読本を採用しているところもあり、中学生へのアンケート調査の結果から一定の効果が出ていると認識しているとのことである。財政に関する意識の醸成を小中学生時代から取り組むことの必要性について伺う。</p> <p>(3) 財政についての行政の説明責任という観点では、出前講座など各課で市民向けに説明を行う際に財政読本を配付し、合わせて関係箇所を説明することで理解向上に寄与できると考えるがいかがか。</p> <p>(4) 職員への配付により、財政への理解力を高めてもらう効果はもちろん、行財政改革や施策展開に対する理解を深めるきっかけづくりになると考えるがいかがか。</p> <p>(5) 資産マネジメントの考え方についても大変分かり難い状況にある。そこで、出前講座の中で公共施設の未来体験ゲームを活用し、地域ごとの資産保有の最適化について自分事として考える機会を設けることで、理解の促進を図っている事例があるが、導入について伺う。</p>	市長 教育長 及び 担当部長